

協議会ニュース

7 号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

59.3

◎ 自然の中の善玉と悪玉について (井上久義)	1
{ 自然を知るために }	
・ 春の植物観察 (高瀬和之)	3
{ フィールドガイド }	
・ 葦毛湿原 (東三河支部)	5
{ 考えてみよう }	
・ 自然保護について考える (橋本 哲)	7
◎ 尾張支部の月例観察会に参加して (永井利幸)	9
◎ 行事報告・支部役員紹介	10
◎ 行事案内	11
◎ 会員移動	2
◎ 刊行物案内	8

チガヤ、ススキ、ヨモギ
オオバコ、イタドリ
ガガイモ、ノイバラ

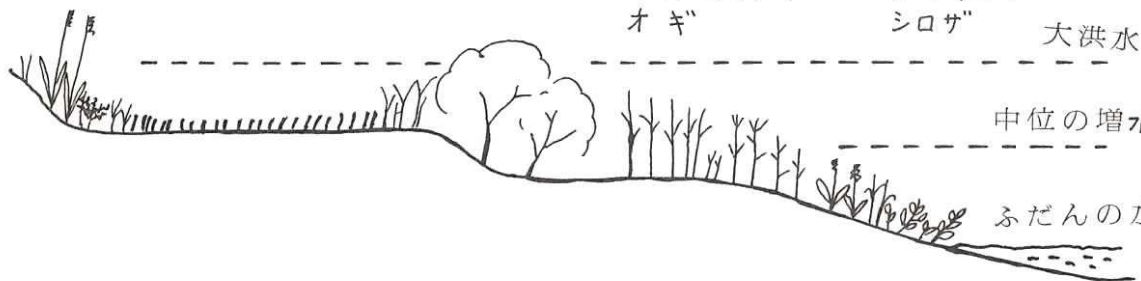
ツルヨシ
クサヨシ
タチヤナギ
イヌコリヤナギ
オギ

ギシギシ
オオイヌタデ
カモジグサ
ネズミムギ
シロサ

大洪水

中位の増水

ふだんの水位



手当たり次第に虫を捕えて、虫かごの中に、カマキリとモンシロチョウを入れておいたら、翌日になってモンシロチョウは、羽だけ残していなくなっていた。カマキリが食べてしまったのである。この時点において、私の息子の判断は、カマキリは可愛いモンシロチョウを、無残にも殺してしまったヤツとして、残酷な悪玉としてしまった。私共はそれまで都会に住んでいたもので、自然というものについて、観念的にしか知っていないから、この現実を見て、息子がカマキリを悪玉としたことは無理もないと思う。私自身はといえば、もう少し大人だから、多面的なことを知っているから、少なくとも、この地方の農家の子供達は、モンシロチョウの幼虫はキャベツの葉を喰い散らかす悪玉であり、そのモンシロチョウを食べるカマキリはむしろ善玉であると、認識していることを知っていたが、それは黙っていた。

冬に、カマキリの卵を野原で見つけて、拾ってきて、それを虫かごに入れておいた。春になって、そのカマキリが巣立ちをした。40余匹が現われ、そのうちの10余匹は逃げてしまったが、残った30余匹のものは、共喰いをはじめて、最終的には2匹が大きく成長した。カマキリは脱皮をする。従前に、手長エビを飼育して、その脱皮を子供に見せてあるが、カマキリの脱皮もそれに劣らず見事なもので、細いカマも、手足も、その形通りにぬけ変わる。

「あんなに沢山いたのに、2匹しか成長しなかった。カマキリは仲間も食べちゃうくらいにおなかがついてたんだね。」「もっと早くにカゴから逃がしてやればよかったね。そうしたら、他のエサを探して、共喰いしなかったかもしれないね。」「仲間さえも食べちゃうのだもの、モンシロチョウを食べるのもしようがないね。」

そして子供は、他の子供にいうのです。「そいつは、ものすごく沢山のなかから、ようやく生き残ったんだから、つかまえたりしてはいけない。また卵を産むかもしれない。」カマキリが悪玉から、それはそれなりに懸命に生きていることを認識するのに3年かかりました。

チョウやガの標本を作るのに、つい面倒で生きたままピンにさしたこ

とがあります。そうすると、その個体がメスだと産卵します。川原でタニシを拾ってきて、金魚ばちの清掃人として利用したのですが、沢山採りすぎて、残ったのを不透明の小さなびんに入れて、ふたをしておいたら、暗い、酸欠状態のなかで、2時間位後にひたを開けてみたら、沢山の子供が産まれていた。生命は、死に面すると子孫を残そうとする。その事実があった時、子供はガの卵がどうしたら成虫になるかを考えて、食草を探し、小さな袋に入れてその枝にぶらさげ、あるいは幹にはりつけてきたし、タニシの子は元の川原に返しに行った。

そういえば、ヒマワリの花が沢山の種子を残して枯れていくことや、タンポポが短い間の花から種子を散らして、葉だけになり、越冬していくことも、同じ生命の営みなのだとすることに、気付いていきます。更に、もしここに、そのヒマワリの種子を食べにくる野鳥やタンポポの葉を食べにくる小動物がいたら、このことに気が付くのにもっと効果的でしょう。

生命の営み、生命の尊さ、生命に対する慈くしみ。皆んな一生懸命なのだ。みんな、それぞれに助け合っているんだね。ほくも、わたしも。

周囲のものを見て、比べて、自分を知る。この自覚ということで、ヒトはヒトになる。そして、このことを擬似体験でなく、からだで体験したいと願う。素朴なこの自覚が、ヒトの行動や思考の根幹にあれば、その人の生きざまは様々であっても、善であり人間的である。このことを自覚させてくれるものが、自然であることに気が付けば、自然保護とは何であるかも自明となるであろう。良い自然とか、悪い自然。ミクロの自然、マクロの自然。個々の自然、生態系としての自然。更にそうしたことをすべて包含した自然、そして自然保護ということも、ヒトがヒトであることを知る手段であろう。

3年かかり、あるいは殺すことにより自覚されたことを、もっと劇的に知らせる方法を索めながら、自然観察指導員は、野に出よう。

〔 会 員 移 動 〕

◎ 加入 後藤ひとみ 名古屋市北区天道町 1-16 No. 517

(尾張支部)

◎ 脱退 天野 徹 (知多支部) 高橋講治 (西三河支部)

春の植物観察

高瀬和之（西尾市）

今年の冬は記録的な大雪で、大変寒い冬でした。そうした厳しい冬も2月の立春を過ぎる頃になると、気の早いツクシが堤防の日当たりのよい南側の土手に顔を出します。今年は、2月19日に矢作川の堤防で初めてツクシを摘み、ヨモギとともに油いためにして、早春の自然の珍味を楽しみました。

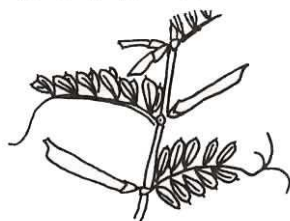
春の訪れを真先に告げるのは、オオイヌノフグリでしょう。2月になると田のあぜ道や堤防の縁などでの暖かい所では空色の美しい花を咲かせ、春を連れてくる先導者の役目をします。そして、3月から4月になると、カラスノエンドウ、ナズナ、スミレが花を咲かせ、一段と春の近づくことを教えてくれます。春の訪れを知るのに便利なものに生物季節や季節現象があります。名古屋におけるソメイヨシノの開花日の平年値は3月31日です。今年は寒さが厳しいため遅くなるかもしれません。

春の植物を観察するには、堤防が格好な場所です。私も矢作川の堤防をよく歩いています。堤防の春を代表する植物は、何といたってもノアザミです。ノアザミの花が真先に咲くのは河口近くの堤防で、順に上流へ向って咲いていきます。月見草の仲間（特にオオマツヨイグサ）にも同じことがいえます。このことは、矢作川の下流と上流の気温差等によることが考えられます。

堤防を自然公園にみたてて、花ごよみを作ったり、下流と上流の開花時期の違いなどを調べるのも楽しい自然観察の一つです。同じ場所を毎年定期的に歩いていると季節の移り変わりがよくわかります。そうしたことが、身近な所の自然を知る第一歩になるでしょう。できれば1つの植物を早春の芽の立つ時から、開花、結実まで続けて観察するとよいでし

ょう。スケッチをすればなお自然を知ることができます。

道端の草花に親しみ、心にゆとりを持つことが、自然観察に一番大切なことだと思います。



カラスノエンドウ

名古屋の生物季節及び季節現象

生物季節・季節現象		平年値
生物季節	ウメの開花日	2月12日
	ソメイヨシノの開花日	3月31日
	ツバメ初見日	4月4日
	ヤマツツジの開花日	4月5日
	ススキの開花日	9月4日
季節現象	初霜	11月20日
	終霜	4月2日
	初雪	12月17日
	終雪	3月12日

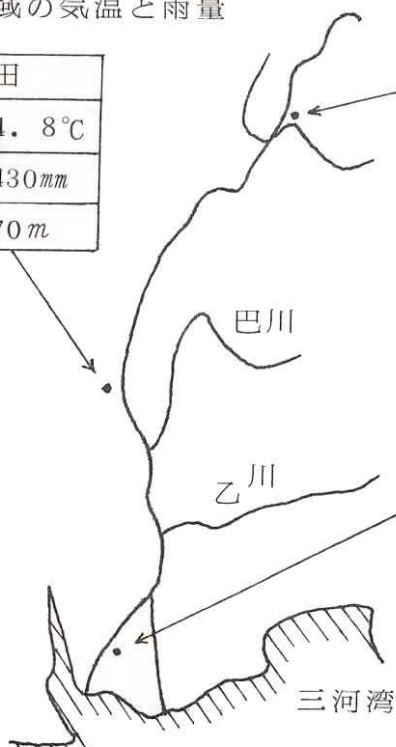
※昭和59年理科年表
による

生物季節や季節の現象から、春が早いか、遅いかなどの一応の目安ができます。

矢作川流域の気温と雨量

豊田	
平均気温	14.8℃
平均雨量	1430mm
標高	70m

稲武	
平均気温	11.7℃
平均雨量	1998mm
標高	505m



西尾	
平均気温	15.2℃
平均雨量	1288mm
標高	3m

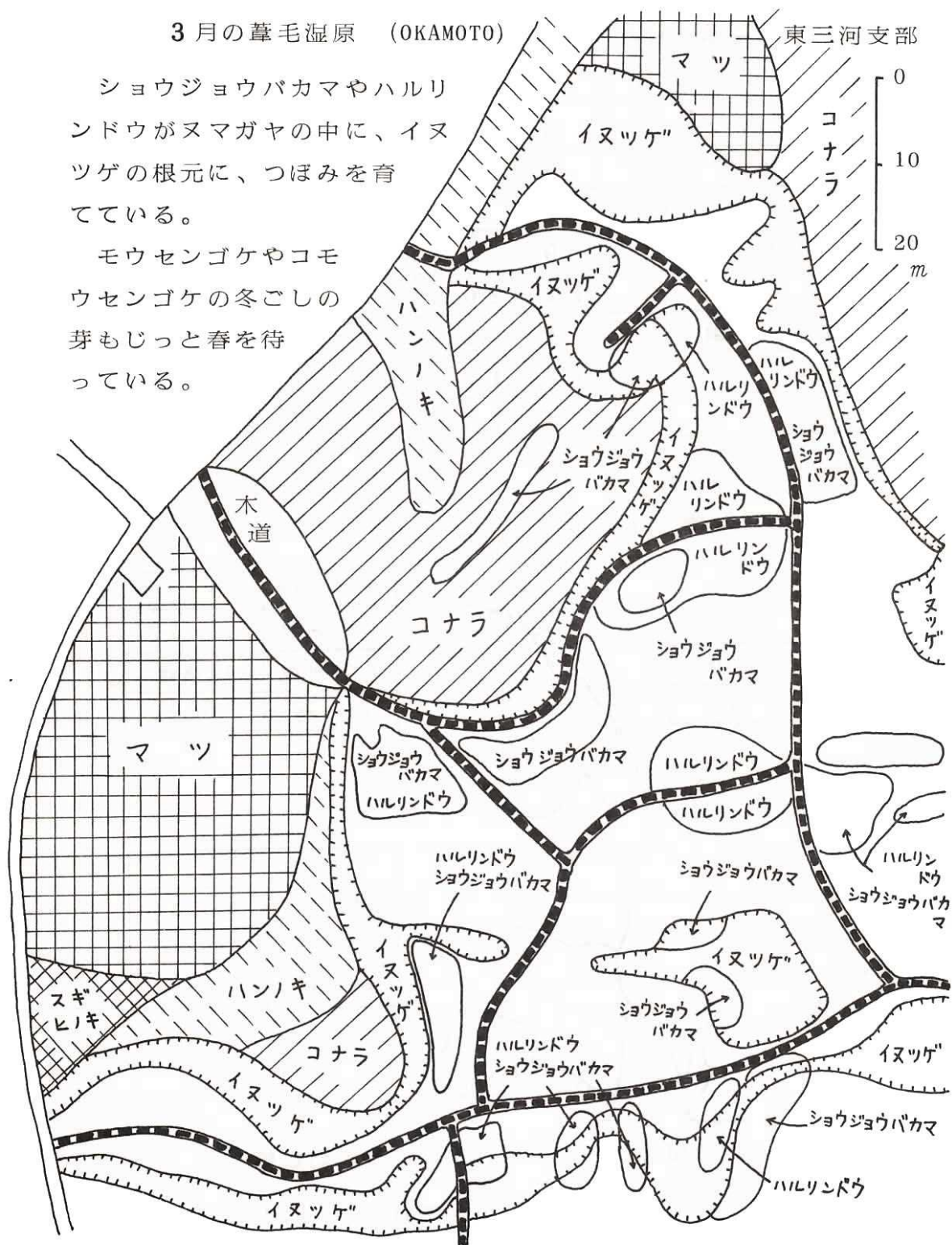
※平均気温・平均雨量は、1961年～1970年の年平均数値

自然を知るには、地域の自然現象を調べておくことも大切です。

3月の葦毛湿原（OKAMOTO）

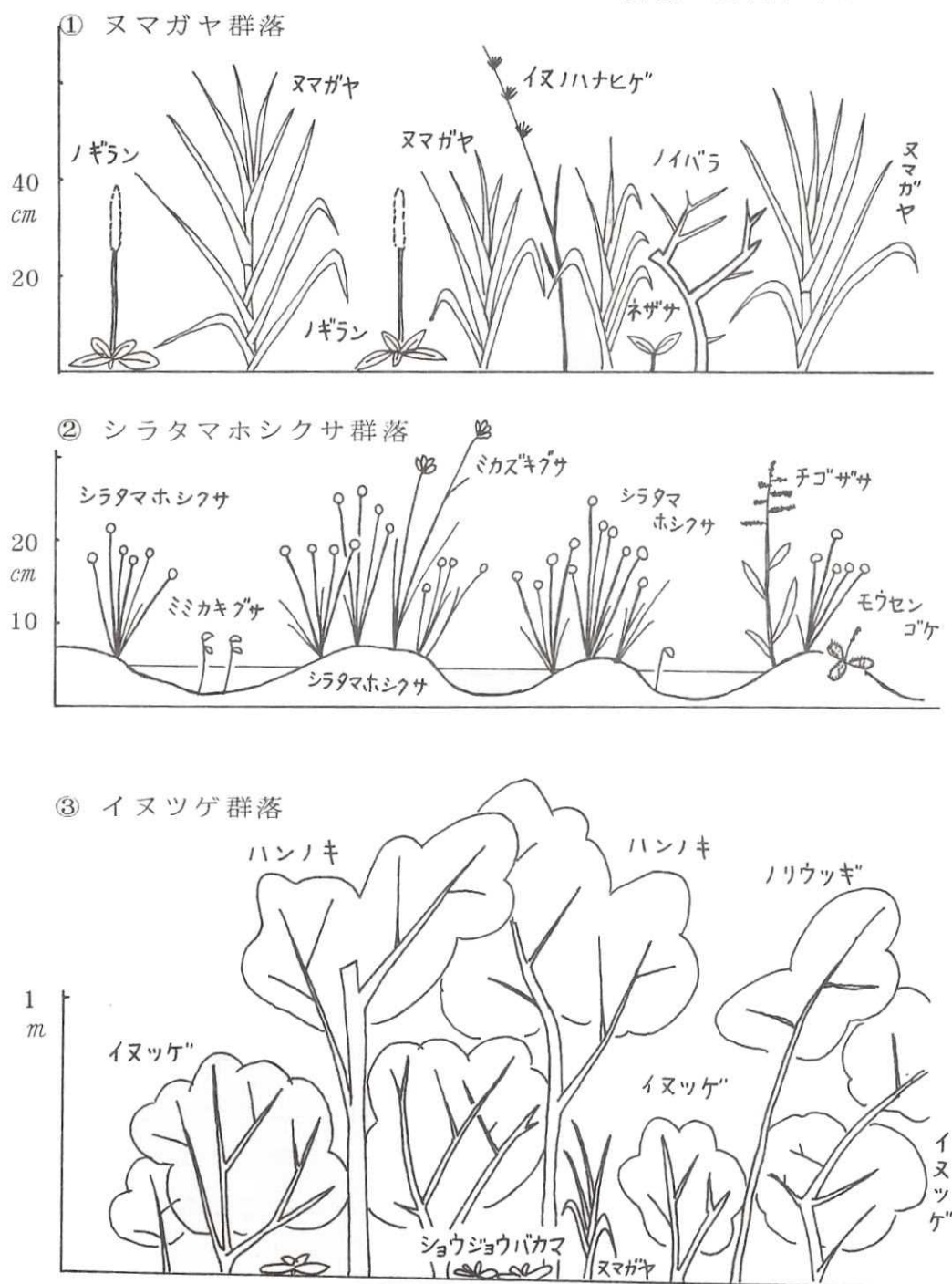
ショウジョウバカマやハルリンドウがヌマガヤの中に、イヌツゲの根元に、つぼみを育てている。

モウセンゴケやコモウセンゴケの冬ごしの芽もじっと春を待っている。



葦毛湿原の植物（群落断面模式図）

調査：倉内、中西



~~~~~ { 考えてみよう } ~~~~~

自然保護について考える ―― ( 自然観察会を通じて )

橋本 哲 (春日井市)

私は今までに、自然保護に関して自分の考えをまとめたり、秩序立てて論じたことはない。また、それができるともあまり思わない。なぜなら、私は極めてデキの悪い自然観察指導員で、皆さんの10分の1も自然観察会に参加したことがなく、いわゆるペーパー指導員であるからである。しかし、こんなあやしげな指導員ではあるが、自然観察についてある期待を、願望に近いようなものを心ひそかに抱いていることも事実である。自然観察を行うこと、観察会に参加すること、これらの行為を通じて、我々はあるものをつかみ得るのではないかという期待である。

まず思いつくことは、趣味としての、あるいは野外レクリエーションとしての自然観察という面である。人が魚つりに、囲碁に、テニスやスキーに生活の一部を割り当てて気ばらしを行うのと同様に、自然観察を気ばらしとして行うことができよう。日々の単調な、あるいはコセコセした人間関係のストレス解消の手段として、自然との触れ合いの中に気分転換を求めるものである。これはこれで十分意義のあることであり、結構なことだと思う。だが、私の抱いている期待はこれだけではない。

次に思いつくことは、野外教育としての自然観察という面である。ただ慢然と樹木や草本を眺めているだけでは、楽しいかもしれないが、それ以上のものは得られない。自然は、むこうから教えてくれることはなく、こちらの持っている道具立てに見合った返事しかしてくれない。自然についての知識は、書物を通じて得られることもあれば、野外における実践を通じ得られることもある。ただ、書物による知識の多くは、教条的であったり、花といえは桜というように観念的であったりして、生きた具体的な現実の姿が見えないし、また見ようとしなないきらいがある。それに比較すると、実践によって獲得した知識はユニークで面白いものが多く、一般の常識をくつがえすようなことさえある。

それでは、この自然観察を野外教育として見立てることは、これで自然観察の意義を十全にいいあてているであろうか。この野外教育、自然を素材とする教育は、またそのための自然観察は、自然界の現象をより



具体的に知ろうとすることだけであろうか。目前の自然の中から、地学や生物学、動植物に関する知識を我ものとするだけで十分であろうか。私は、自然観察の持つ教育的意義を否定しはしないし、反対に単なる教科書による画一的知識よりもはるかに豊茂で確かな知識を得るための手段として、他にはないほどのものであると考える。だが私の抱く期待は、こうした知識を獲得することだけでもない。

ここまで、まわりくどい言い方をしてきたが、最初にお断わりしたように、私の期待するあるものをつかみ、論理的に展開する自信は、私にはない。ただ、私の抱く感じとして、自然観察を行うことには、趣味やレクリエーション、あるいは自然科学の知識獲得のための教育の場としてだけでは汲みつくし得ない、もうひとつ奥にある、あるものを期待したい。自然観察という場には、それを期待できるだけの価値があると、私は思う。



このあるものとは、非常に大雑把で荒削りな表現をすれば、自己認識とでもいうようなものである。そして、自然観察を通じて獲得される自己認識は、机上ではなく、自然のフィールドにおける実践を通してこそ、徐々にうちかわれていくものであるという気がする。また、この自己認識を得るような自然観察は、自然の営みそのものを対象とする故に、身近な見慣れた自然でも行い得るものである。

さらに、こうした自己認識を得る自然観察こそが自然保護にも通ずるものであり、ひいては自然保護とは人間保護であるということに行き着くのだという予感とも期待ともつかぬものが私にはあるのだが。



#### 〔 刊 行 物 案 内 〕

- ・「犬山市の昆虫」 発行：犬山市（秘書企画課） 58年11月  
昆虫の写真と説明（50種） 58P
- ・「東浦の自然」 発行：東浦町教育委員会 58年3月 136P（A5）  
東浦町の地質、植物、動物、ため池の生物  
（編集：東浦町自然環境調査研究団）

去る2月19日（日）に、犬山市継鹿尾で尾張支部の月例観察会が行われました。本稿では、そのもようをお伝えします。

当日は前々日の雪があちこちに相当残る寒い日であったにもかかわらず支部代表の長尾さんや当協議会会長の大竹さんを始め13名の参加者がありました。フィールドの継鹿尾観音では簡単な自己紹介のあと、長尾さんから今年の支部テーマである「食物連鎖」について説明を受け、観察の際のポイントとしては、「何が何を食べていたか」に注目しようと確認し合って観察会に移りました。

今回の観察会のハイライトは、まずなんといっても中小型は乳類の足跡を多く観察できたことです。消え残った雪の上に、タヌキ、ノウサギ、イタチ、テン、キツネの足跡がくっきりとついていて、大きさ、形、歩き方の特徴をじっくり観察できました。なかでもノウサギについては、足跡と同時にヒサカキの食こんやふんについても観察でき、支部テーマの貴重な記録となりました。もうひとつは、観察できた鳥の種類数が半減したことです。前回の1月26日の観察会では28種の鳥を観察したのが今回は15種に減りました。これについては、カキなどの果実がほとんど食べつくされたためではないかという推論がなされました。今後の研究の成果が待たれます。

観察会終了後、支部役員の改選や運営方針について話し合われました。支部の計画について紹介しますと、観察会としては、5月の犬山市主催の善師野観察会の指導を引き受けるのを始めに、県委託の観察会を秋に行うこととし、その他に毎月の月例会を夏ごろから一般参加の観察会にしてゆくことになりました。これについては、新聞のお知らせ欄を活用して会の開を伝えてはどうかという提案がなされました。また、植生調査の研修をぜひやりたいという強い要望が出されました。これについては、自分達のフィールドの植物を知り、他のフィールドとの比較を行うことができれば、観察指導のうえで有効な武器になるということで、参加支部員の意見が一致し、4月の月例会終了後善師野で行なわれることになりました。

以上が尾張支部の2月月例会のもようです。紙数の都合で、参加者のプロフィールなどをお伝えできなかったのは残念ですが、皆さんの観察指導にかける熱意には並々ならぬものがあり、そのことを強調して拙稿を締めくくります。



## 〔 行 事 報 告 〕

### 59. 2. 26 総会及び研修会

- ・総会 第1号議案 昭和59年度事業計画について

第2号議案 昭和59年度予算について

(以上可決されました。)

なお、天神崎（和歌山県）のナショナルトラストに本協議会も協力することになりました。

- ・研修会 「里山の保護と動物調査」

講師 木下陸男（大阪自然環境保全協会理事）

---

## 〔 支 部 役 員 紹 介 〕

- ・名古屋支部（東・西）

代表：石田 肇（東）、福西寿広（西）

幹事：岩井隆史、岩崎龍生、内田克幸、佐藤国彦、朱雀英八郎

東 義己

- ・尾張支部

代表：山本尚三 副代表：石原正彦 顧問：長尾 智

幹事：井上久義、磯部譲治、岩山正光、後藤 春

会計：塚田桂子

- ・西三河支部

代表：三津井宏 副代表：宮本敬之助

幹事：水鳥富人、川辺泰正





〔 行 事 案 内 〕

| 期 日         | 主 催   | 内 容                      | 備 考                  |
|-------------|-------|--------------------------|----------------------|
| 59<br>4. 1  | 名古屋支部 | 野外研修会（東谷山）               | フルーツパーク<br>本館前 9：30  |
| 4.11<br>(水) | 〃     | 例会「ため池の保護と水生植<br>物の観察」   | 中小企業センタ<br>ー 6：30    |
| 4.13<br>(金) | 知多支部  | 室内懇談会                    | 阿久比町中央公<br>民館 6：00   |
| 4.22<br>(日) | 〃     | 自然観察会（猿投山）               | 東海市農業セン<br>ター 8：30   |
| 4.22<br>(日) | 尾張支部  | 月例観察会（犬山市）               | 犬山遊園駅<br>8：30        |
| 4.28<br>(土) | 協議会   | 企画運営委員会                  | 中小企業センタ<br>ー 2：00    |
| 5. 9<br>(水) | 名古屋支部 | 例会「志段味の歴史－<br>古墳を中心に」    | 中小企業センタ<br>ー 6：30    |
| 5.11<br>(金) | 知多支部  | 室内懇談会                    | 阿久比町中央公<br>民館 6：00   |
| 5.12<br>(土) | 東三河支部 | 研究会（緑の国勢調査<br>の進め方）      | 葦毛湿原駐車場<br>2：00（予定）  |
| 5.13<br>(日) | 知多支部  | 自然観察会現地調査<br>〔富具崎〕       | 野間駅 9：15<br>富具崎 9：30 |
| 5.20<br>(日) | 名古屋支部 | 自然観察会〔一般募集〕<br>東谷山       | （5月13日事前<br>調査）      |
| 5.27<br>(日) | 尾張支部  | 観察会指導者派遣<br>（主催：犬山市）     | 善師野駅 9：00            |
| 5. 3<br>(祭) | 協議会   | すぐれた自然を見る会<br>（御池岳・・・鈴鹿） | 別途案内                 |

〔 事務局から 〕

- ◎ 和歌山県田辺町の天神崎のナショナルトラストに本協議会としても協力することにしました。会員の皆様の御協力をお願いします。観察会等の行事に際してもPRして下さい。内容及び振込用紙は、協議会事務局または支部幹事等へお問い合わせ下さい。

なお、総会では5,000円集まりました。（天神崎へ送付済）